

2017年 5月 8日

2016年度研究推進プログラム（科研費獲得推進型）研究成果報告書

採択者	所属機関・職名：文学部・教授 氏名：生田真人
研究課題	世界経済の再編と世界都市論の再構築

I. 研究計画の概要

平成29年度科学研究費助成事業－科研費－申請時の研究計画について、概要を記入してください。

以前の平成28年度の科研費申請では挑戦的萌芽研究の枠組みで「世界経済の再編と世界都市論の再構築」という課題名で提出したけれども、それは不採択であった。そこで平成29年度申請に際しては研究計画を変更して基盤研究とし、研究課題等も変更した。新たな研究課題名は、「経済地理学における世界都市論の再構築」とした。この研究は経済地理学の観点から世界経済の再編を展望し、各国の国民経済と国内主要都市との関係および主要都市間の国際的関係を再検討しようとするものである。この研究は、欧米の大都市圏を主な研究対象とする現在の世界都市論に関して、アジア地域の大都市圏を見直すことによって再構築しようとしている。

アジア経済の成長が継続して世界経済は大きく再編されつつあるが、現在の世界都市論は世界の経済と政治の変化に充分には対応できていない。そこでロシア等CIS諸国を含みながらアジアの大都市圏に焦点を当てて研究し、経済地理学の観点から企業等に雇用される都市居住者に注目しつつ、国家と大都市圏に関する新しい見方（観点）を提案することを主な研究目的とする。世界には、EU（欧州連合）のように、強いレベルの国際的・地域統合が実現している地域と北米のように弱いレベルの国際的・地域統合しか実現していない地域とがある。さらに、国内の都市・国家間関係の特徴に注目すると、EUや北米のように都市が相対的に自立自律的である地域と、アジアやアフリカ諸国のように都市の自律性が低くて、国家に従属的な地域とがある。このように世界について国際的レベルの地域統合と国内の都市・国家間関係の特徴をそれぞれ2区分した4類型を構想し、世界史的な観点から国家論と都市論を整理することで、経済地理学の方法論を再構築する。この時、デヴィッド・ハーヴェイとフェルナン・ブローデルの時間論を導入した方法論を検討し、国家連合・国家・都市というマクロな次元の考察に加えて個人の労働や生活を見るミクロな次元の考察を論理的に統合し、それらによって大都市成長の論理を構想する。

II. 研究成果の概要

本プログラムの助成を受けたことによる研究成果について、概要を記入してください。

このプログラムの助成を得たことによる主な研究成果としては、2016年8月に北京で開催された国際地理学会の世界大会で東南アジアの都市成長に関して研究発表を行ったことを指摘することが出来る。さらにこのプログラム経費を用いて上海と北京で科研費申請に関連する予備調査を行った。上海と北京は応募した科研費に深く関連する研究対象都市であり、研究計画の構築のために2都市を事前に調査し、それを研究計画に反映することができた。

これら2都市の実態調査によって、中国における近年の経済発展と所得水準の上昇が、大都市圏の市民生活にどのような影響を与えているかという点を把握することができた。北京では、市街地の現状を調査し、上海についてもその都心部及び郊外の工業団地等について工業化の進展に関する状況を検討した。両都市ともこの10年余りの間に地下鉄網が拡充され、郊外住宅地化が進展して都市型娯楽施設等も立地するようになった。こうした実態把握は、科研費申請に当たって、その方法論を検討する際に大きく役立った。さらに世界経済の再編に関する各種の図書資料を購入した。これらを研究成果の概要として報告することができる。